

第3回 箕輪町森林ビジョン検討委員会
～第2回委員会とヒアリングを踏まえた
本編の修正案～

合同会社 ラーチアンドパイン

« 箕輪町森林ビジョン3つの柱 ～私たちが森に期待すること～ »



箕輪町の面積の63.8%は、森です。森は美しい景観をつくり、様々な恵みを私たちにもたらず一方で、時には災害などの恐ろしい一面を見せます。そんな森と付き合っていく上で、私たち箕輪町民が森に期待することを言葉にまとめると、次のようになります。これが、箕輪町森林ビジョンの3つの柱です。

み 災害が少なく、安全・安心であること

- ・ 災害に強い森林づくりが行われ、土砂災害が起こりにくい
- ・ 防災、減災を最優先に考えながら、森の利活用が行われている
- ・ 松くい虫被害対策が講じられ、松枯れによる倒木や落枝が町民生活に影響を与えない
- ・ 奥山では多種多様な木々が育ち、人里に近いエリアでは藪の刈払いや誘引物の管理が徹底され、人とツキノワグマなどの野生動物とが緊張感のある共存関係を築いている

の 箕輪町の暮らしを彩り、支え、みんなが通いたくなる森であること

- ・ 先人たちが植え育てた人工林を含む、森の景観そのものが、箕輪町の誇りである
- ・ 人工林のうち、持続的な木材生産をしない森は、自然で多様な森へと徐々に移り変わっていく
- ・ ウォーキングや山菜採り、キャンプなど、様々な楽しみ方があり、みんなが通いたくなる、望めば関われる
- ・ 自然そのものや、そこに関わる人たち同士の触れ合いを通して、大人も子どもも、気づきや学びを得られる
- ・ 豊かな水を育み、渇水や洪水を防ぐ森として、町の暮らしを支えている

わ 資源を育み、もたらすこと

- ・ 住宅や家具、薪や炭に使う木材を将来にわたって持続的に育み、産出するため、伐って植えて育てる循環が成り立っている
- ・ 今すぐ伐って使うには採算が合わない人工林であっても、将来の木材資源になり得ると考える場所は、災害リスクを取り除いて保続管理されている
- ・ 町の森林を守り育てる人々が、その技術を研鑽し、継承する場となる

« 箕輪町森林ビジョン3つの柱 ～私たちが森に期待すること～ »

箕輪町の面積の63.8%は、森です。森は美しい景観をつくり、様々な恵みを私たちにもたらす一方で、時には災害などの恐ろしい一面を見せます。そんな森と付き合っていく上で、私たち箕輪町民が森に期待することを言葉にまとめると、次のようになります。これが、箕輪町森林ビジョンの3つの柱です。

み 災害が少なく、安全・安心であること

- ・ 災害に強い森林づくりが行われ、土砂災害が起こりにくい
- ・ 防災、減災を最優先に考えながら、森の利活用が行われている
- ・ 松くい虫被害対策が講じられ、松枯れによる倒木や落枝が町民生活に影響を与えない
- ・ 奥山では多種多様な木々が育ち、人里に近いエリアでは藪の刈払いや誘引物の管理が徹底され、人とツキノワグマなどの野生動物とが緊張感のある共存関係を築いている

の 箕輪町の暮らしを彩り、支え、みんなが通いたくなる森であること

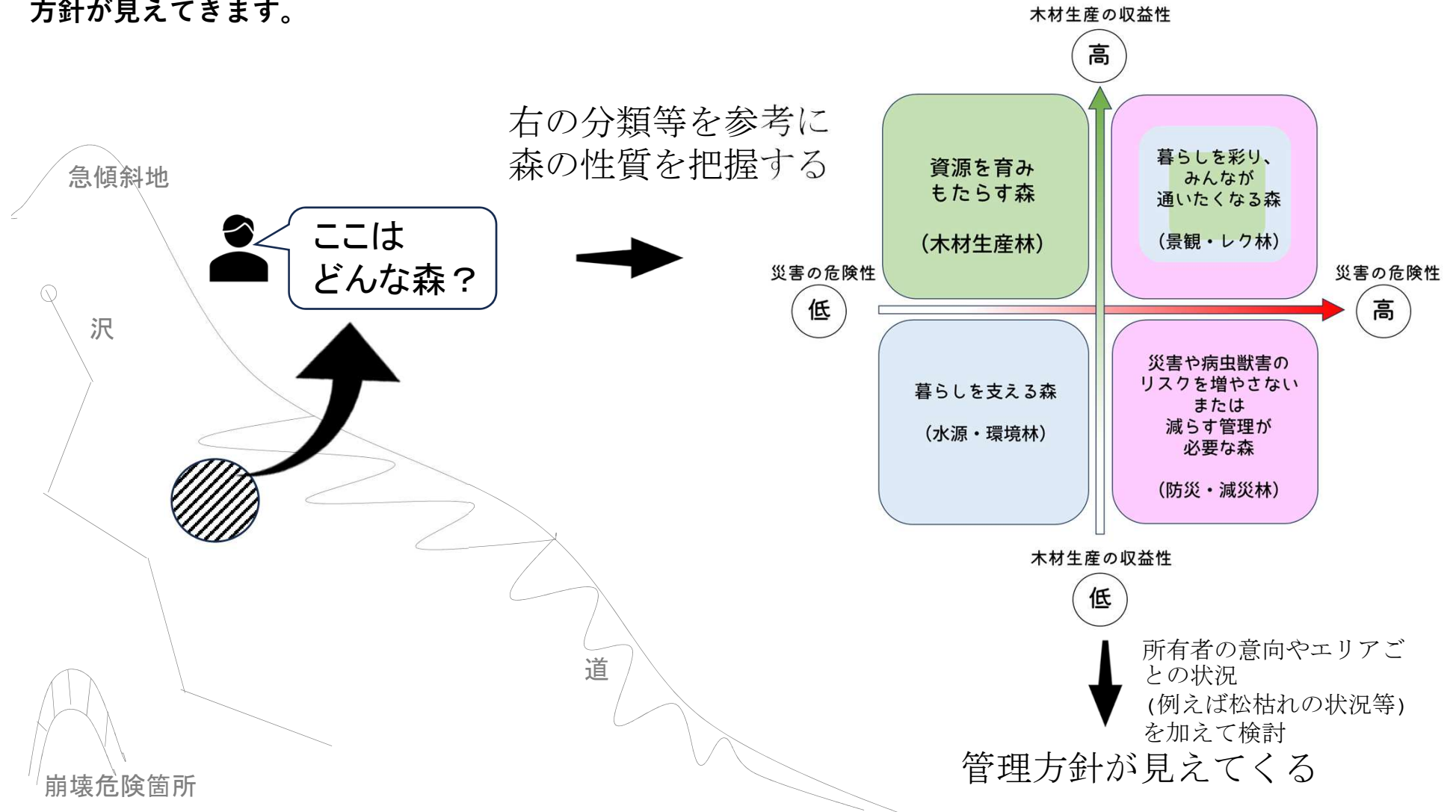
- ・ 先人たちが植え育てた人工林を含む、森の景観そのものが、箕輪町の誇りである
- ・ 人工林のうち、持続的な木材生産をしない森は、自然で多様な森へと徐々に移り変わっていく
- ・ ウォーキングや山菜採り、キャンプなど、様々な楽しみ方があり、みんなが通いたくなる、望めば関われる
- ・ 自然そのものや、そこに関わる人たち同士の触れ合いを通して、大人も子どもも、気づきや学びを得られる
- ・ 豊かな水を育み、渇水や洪水を防ぐ森として、町の暮らしを支えている

わ 資源を育み、もたらすこと

- ・ 住宅や家具、薪や炭に使う木材を将来にわたって持続的に育み、産出するため、伐って植えて育てる循環が成り立っている
- ・ 今すぐ伐って使うには採算が合わない人工林であっても、将来の木材資源になり得ると考える場所は、災害リスクを取り除いて保続管理されている
- ・ 町の森林を守り育てる人々が、その技術を研鑽し、継承する場となる

≪ 森の性質を見極める ≫

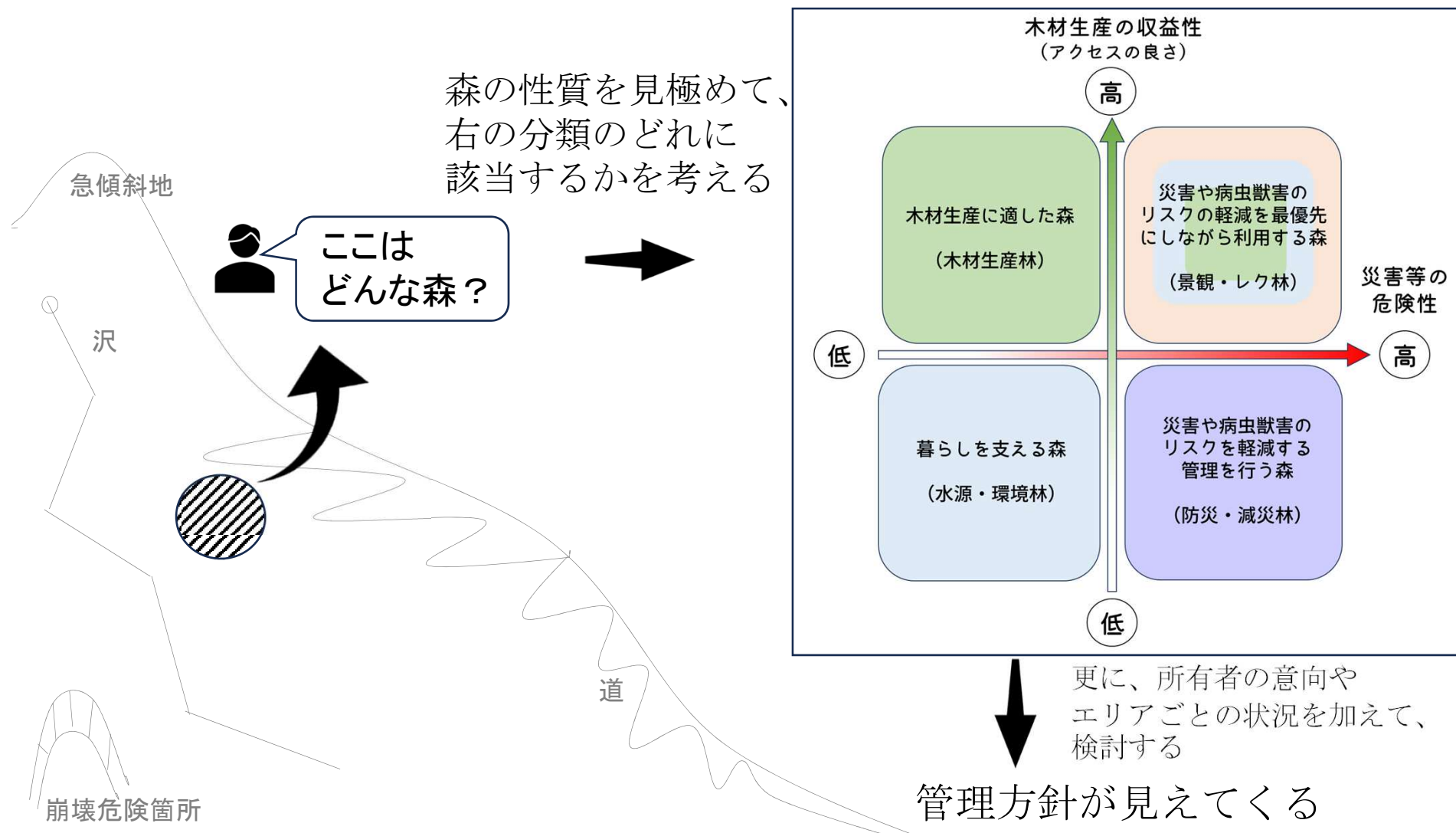
ある森の利用や管理を検討するとき、私たちはまず、その森がどんな森かを見極めます。特に「災害の危険性」と「木材生産の収益性」に注目する場合、その森が次の分類のうちのどれに当てはまるかを参考に考えます。「森」と一口に言っても一様ではなく、その場所の標高や地形、生えている木の種類や樹齢、林業に使える道の有無などの性質によって、それぞれ期待できることが変わってくるからです。森の性質は、町や県が公開する情報等から把握します。森の性質を把握し、更に地域の個別事情等を加えて検討することで、その森の管理方針が見えてきます。



◀ ビジョン達成に向けて ~森の性質を見極め、分類する~ ▶

ある森の利用や管理を検討するとき、私たちはまず、その森がどんな森かを見極めます。「森」と一口に言っても一様ではなく、その場所の標高や地形、生えている木の種類や樹齢、林業に使える道の有無などの性質によって、それぞれ期待できることが変わってくるからです。森の性質は、町や県が公開する情報等から把握します。

「災害の危険性」と「木材生産の収益性」に注目して性質を把握する場合、その森が次の分類のうちのどれに当てはまるかを考えます。更に、地域の個別事情等を加えて検討することで、その森の管理方針が見えてきます。



≪ 森の分類とビジョンの3つの柱 ≫

森の性質を見極めると、ビジョンの3つの柱のうち、どれを期待できるかがわかります。そしてそれぞれの森の管理や利用について、主な方針の選択肢が見えてきます。

森の分類	主に期待すること (ビジョンの3つの柱)	管理・利用の方針
災害や病虫獣害のリスクを増やさないまたは減らす管理が必要な森 (防災・減災林)	み。 災害が少なく、安心・安全であること	<ul style="list-style-type: none"> ・防災上マイナスになることをしない管理 ・災害リスクを取り除く整備 ・定期的な点検 ・松くい虫被害木の除去 ・アカマツの樹種転換 ・藪や緩衝帯の管理
暮らしを彩り、みんなが通いたくなる森 (景観・レク林)	の。 箕輪町の暮らしを彩り、支え、みんなが通いたくなる森であること	<ul style="list-style-type: none"> ・防災に最大限配慮した木材生産の循環の維持または構築 ・木材以外の恵み(モノ・コト)を得るための管理 ・町民が親しむための管理 ・人工林を自然へ還す管理 または現状維持 ・災害リスクを取り除く管理
暮らしを支える森 (水源・環境林)		<ul style="list-style-type: none"> ・人工林を自然へ還す管理 ・水源かん養機能を高める管理 ・現状維持 ・災害リスクを取り除く管理
資源を育み、もたらず森 (木材生産林)	わ。 資源を育み、もたらずこと	<ul style="list-style-type: none"> ・伐って植えて育てる木材生産の循環の維持または構築

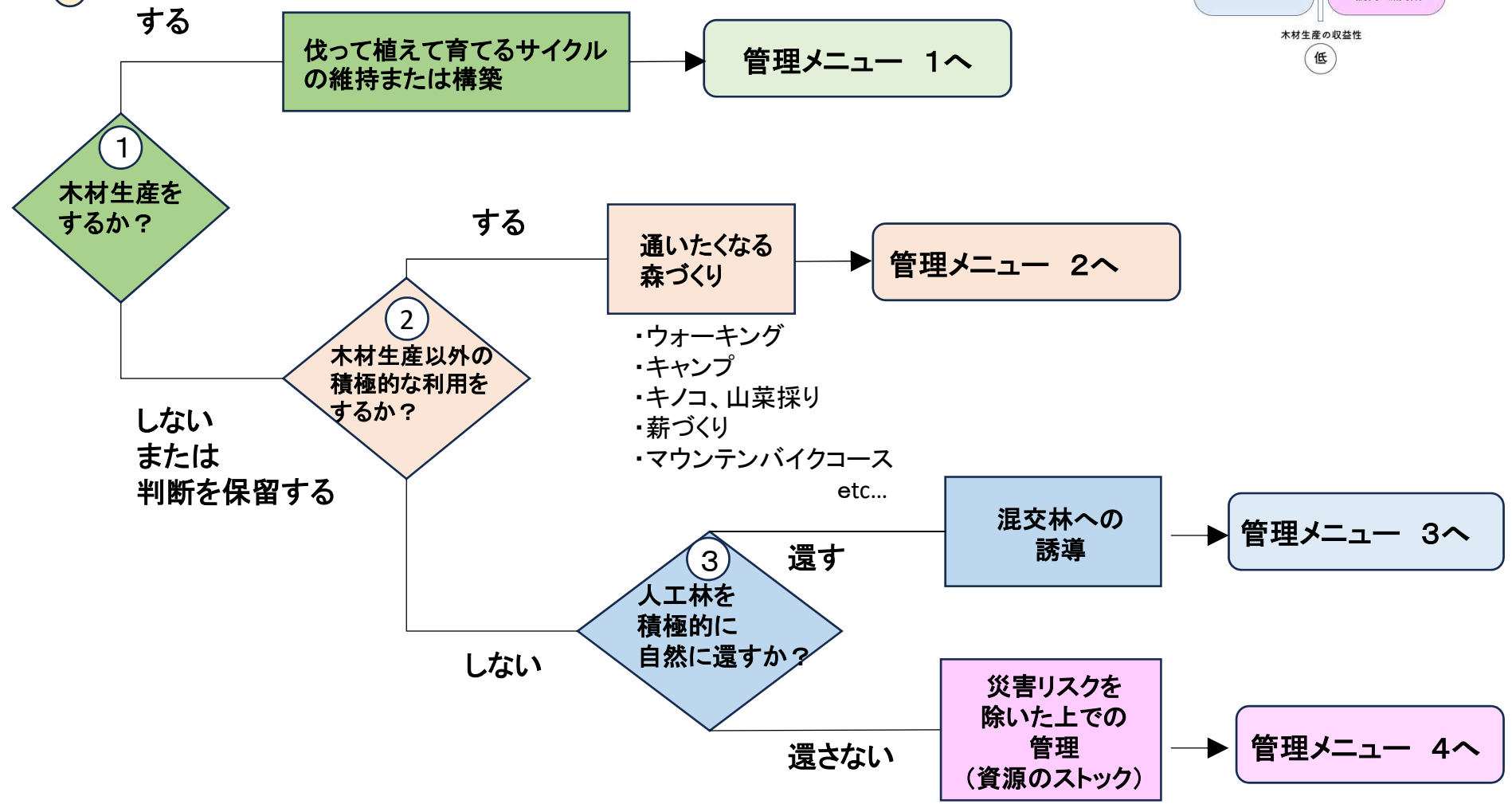
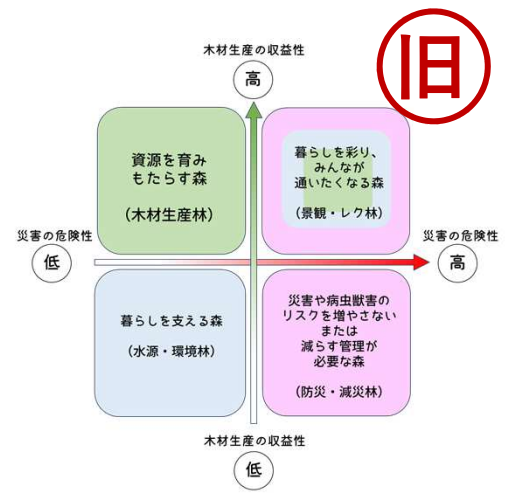
管理や利用の方針は、法令等の範囲内で、森林所有者の意思により決まることとなります。その際の考え方の例を次の図で示します。

森林所有者の意思決定の流れの例

新規追加

利活用を考える森の性質が

- 木材生産林 の場合 ⇒ ①からスタート
- 景観・レク林 の場合 ⇒ ②からスタート
- 水源・環境林 の場合 ⇒ ③からスタート
- 防災・減災林



管理メニュー



	管理方針	安全のために 特に必要なこと・もの	必要なこと・もの	財源
1	伐って植えて育てる サイクルの維持	<ul style="list-style-type: none"> ・地形や地質の把握 ・防災上のマイナスを生じさせない施業 ・災害リスクのモニタリング ・安全な道づくりと維持管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・所有者と林業事業者との関係づくり ・担い手の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・国、県の補助金 ・町の嵩上げ補助
2	通いたくなる森づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地形や地質の把握 ・防災上のマイナスを生じさせない利活用 ・災害リスクのモニタリング 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識、技術のアップデート ・所有者間、事業者間の横のつながりと情報交換 ・ワクワクすることの発信、共有（マップ化等） ・利用者の範囲に関する合意 ・一般町民の関わり 	<ul style="list-style-type: none"> ・国、県の補助金 ・町の嵩上げ補助 ・森林環境譲与税 ・みどりの募金 ・町活性化交付金
3	混交林への誘導	<ul style="list-style-type: none"> ・地形や地質の把握 ・防災上のマイナスを生じさせない施業 ・災害リスクのモニタリング 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標とする森の姿に到達させる技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・国、県の補助金 ・町の嵩上げ補助 ・森林環境譲与税
4	災害リスクを除いた上での管理 (資源のストック)	<ul style="list-style-type: none"> ・地形や地質の把握 ・災害リスクのモニタリングと除去 ・行政との情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング体制の構築と維持 	<ul style="list-style-type: none"> ・国、県の補助金 ・町の嵩上げ補助 ・森林環境譲与税 ・町、県による防災事業

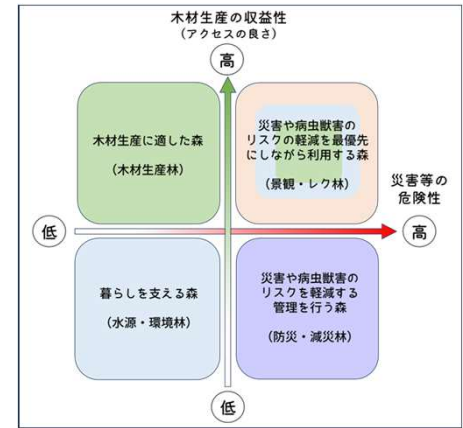
« 森の分類とビジョンの3つの柱、管理方針 »

森の性質を見極め、分類がわかると、ビジョンの3つの柱のうち、どれを期待できるかがわかります。そしてそれぞれの森の管理や利用について、主な方針の選択肢が見えてきます。

大目標：町内のすべての森が、何らかの方針のもとに管理されている。放置ゼロ！

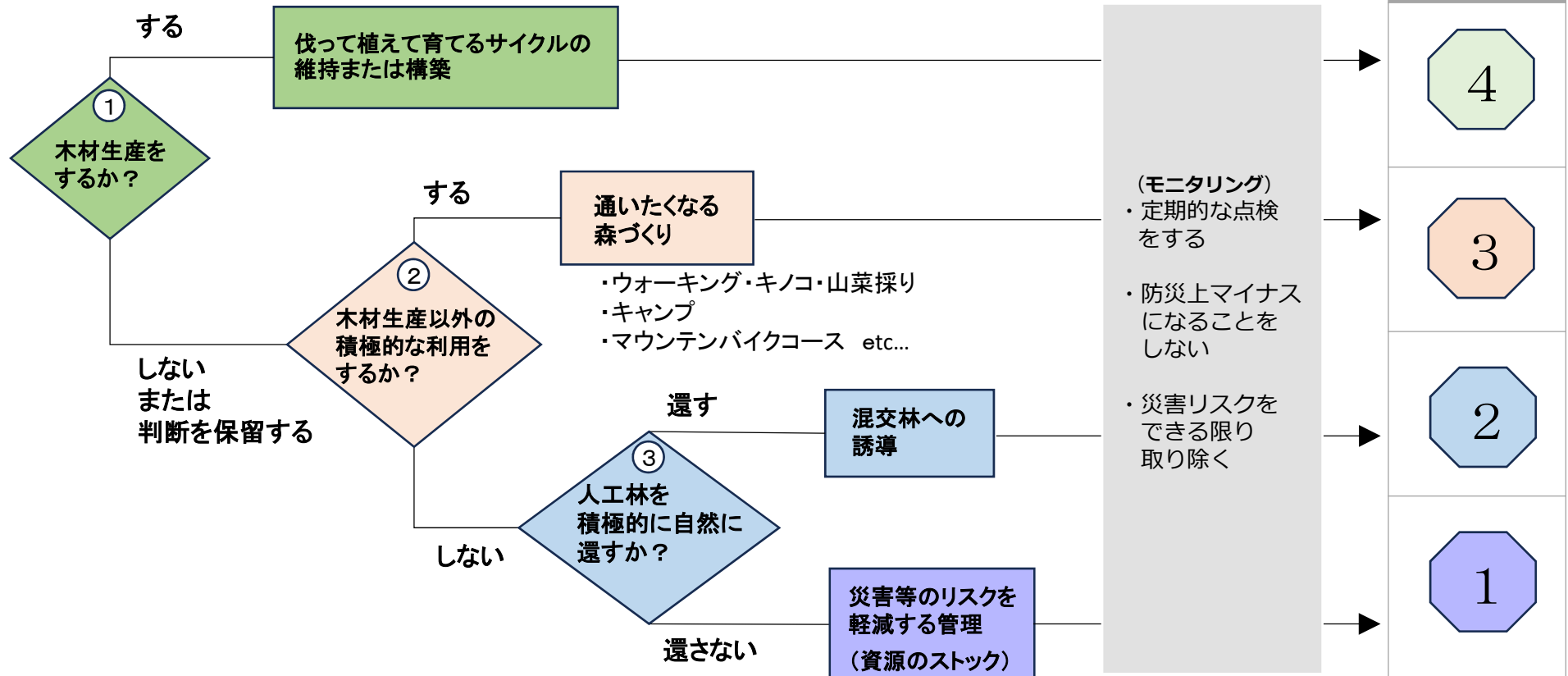
森の分類	主に期待すること (ビジョンの3つの柱)	目標とする森の姿 (イメージ)	主な管理方針	個別管理メニュー
災害や病虫獣害の リスクを軽減する管理 をする森 (防災・減災林)	① 災害が少なく、 安心・安全であること	イメージ 写真	災害等のリスクを 軽減する管理 (資源のストック)	<ul style="list-style-type: none"> 行政対応も含めた災害リスクの除去、軽減 災害に強い森林づくり 人工林の保続的管理 松枯れの拡大防止 野生動物の生息域との境界明確化
暮らしを支える森 (水源・環境林)	② 箕輪町の暮らしを彩り、 支え、 みんなが通いたくなる森 であること	イメージ 写真	混交林への誘導	<ul style="list-style-type: none"> 水源かん養機能を高める管理 人工林を自然へ還す管理 人工林の保続的管理 (資源ストック)
災害や病虫獣害の リスクの軽減を最優先 にしながら利用する森 (景観・レク林)		イメージ 写真	通いたくなる 森づくり	<ul style="list-style-type: none"> 防災に最大限配慮した木材生産の循環の維持または構築 木材以外の恵み(モノ・コト)を得るための管理 町民が親しむための管理 人工林を自然へ還す管理 人工林の保続的管理 (資源ストック)
木材生産に適した森 (木材生産林)	③ 資源を育み、 もたらすこと	イメージ 写真	伐って植えて 育てるサイクルの 維持または構築	<ul style="list-style-type: none"> 人工林を伐って植えて育てる木材生産の循環の維持または構築 人工林の保続的管理 (資源ストック)

森林所有者の意思決定の流れの例と管理メニュー 修正



利活用を考える森の性質が

- 木材生産林** の場合 ⇒ ①からスタート
- 景観・レク林** の場合 ⇒ ②からスタート
- 水源・環境林** の場合 ⇒ ③からスタート
- 防災・減災林** の場合 ⇒ ③からスタート



「私たちが望む 森との関わり方 ～関わり方のビジョン～」



ビジョンの3つの柱をそれぞれ達成する上で、私たちと森との関わり方についても現状と目標を整理します。

		現状	目標
森林所有者	個人	<ul style="list-style-type: none"> 自分の森の場所や状況が不明 自分の森をどう管理したらよいかわからない 森に時間や労力、お金を割けない、割く価値を見出せない 高齢化が進み、次世代への引継ぎにも不安がある 木材収入が期待できない 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の森の場所や状況を把握している 町が提供する情報等をもとに、森の性質を見極め、管理について自ら考えることができる、もしくは相談先がある ビジョン達成に向けた最低限の管理を確実にしている（作業の外部委託も含む） 森の性質によっては、木材生産以外の利活用も検討し、実行できる 若い世代も森の管理の主体に加わり、所有と管理が円滑に引継がれる
	団体	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの森をどう管理したらよいかわからない 高齢化が進み、実際の作業の継続や次世代への引継ぎに不安がある 木材収入が期待できない 役員に専門的な知識をもつ人が少なく、また任期があり、継続的な検討や管理が進まない 	<ul style="list-style-type: none"> 町が提供する情報等をもとに、森の性質を見極め、管理について自ら考えることができる、もしくは相談先がある ビジョン達成に向けた最低限の管理を確実にしている（作業の外部委託も含む） 森の性質によっては、木材生産以外の利活用も検討し、実行できる 若い世代も含めた森の管理の体制があり、その体制が持続できる
一般町民		<ul style="list-style-type: none"> 森との関わりを求めている人が多いが、その機会、きっかけがない人も多い 	<ul style="list-style-type: none"> 町民誰もが、望めば何かしらのかたちで森と関わることができる（そのための仕組みや制度が整っている）
町（行政）		<ul style="list-style-type: none"> 箕輪町森林整備計画の策定、伐造届の受理等、法令に則った森林計画関係業務等を担当 災害発生後の復旧対応等を担当 公的管理には限界があり、管理手法の検討や優先順位付けが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 箕輪町森林整備計画等、他の行政計画とビジョンとの整合性がとれている 森林所有者が管理について判断するための情報を提供し、相談に乗ることができる 所有者の意向があり、必要と判断される場所については、既存の制度等を活用し、町が直接的に管理する 一般町民が森に親しんだり、管理に参加したりできる仕組みや制度を整える

「私たちが望む 森との関わり方 ～関わり方のビジョン～」

ビジョンの3つの柱をそれぞれ達成する上で、私たちと森との関わり方についても目標を整理します。

目標				
森林所有者	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の森の場所、所有境界、状況等を把握している ・町が提供する情報等をもとに、森の性質を見極め、管理について自ら考えることができる、もしくは相談先がある ・ビジョン達成に向けた、最低限の管理を確実にしている（計画や作業の外部委託も含む） ・森の性質によっては木材生産以外の利活用も検討し、実行できる 			
	<table border="1"> <tr> <td>個人</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・森林の所有と管理が次世代へと円滑に引き継がれる ・近隣の団体有林との間で森林管理の連携ができる </td> </tr> <tr> <td>団体</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代も含めた森の管理体制があり、その体制が持続できる ・近隣の個人有林との間で森林管理の連携ができる ・地域住民が森に関わる機会を提供できる </td> </tr> </table>	個人	<ul style="list-style-type: none"> ・森林の所有と管理が次世代へと円滑に引き継がれる ・近隣の団体有林との間で森林管理の連携ができる 	団体
個人	<ul style="list-style-type: none"> ・森林の所有と管理が次世代へと円滑に引き継がれる ・近隣の団体有林との間で森林管理の連携ができる 			
団体	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代も含めた森の管理体制があり、その体制が持続できる ・近隣の個人有林との間で森林管理の連携ができる ・地域住民が森に関わる機会を提供できる 			
関係事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の森林をある程度の規模で集約化し、効率的で持続的な木材生産や森林整備を行っている ・木材生産に止まらない、広い意味での森林管理（所有者サポート、計画作成、森林整備、防災上の維持管理等）を一手に、或いは分業して担っており、町内のニーズを満たすことができている 			
一般町民	<ul style="list-style-type: none"> ・町民誰もが、望めば何かしらのかたちで森と関わりすることができる（そのための仕組みや制度が整っている） ・町の森林から生産される木材やその他の恵みが、素材や製品、サービス等として町内で提供されており、入手（購入）できる 			
町（行政）	<ul style="list-style-type: none"> ・箕輪町森林整備計画等、他の行政計画と、森林ビジョンとの整合性がとれ、一貫性のある施策が展開されている ・森林ビジョンが達成されるよう、アクションプランの実行、達成度の確認、必要な見直し等を継続的に行っている ・所有者が森林管理について判断するための情報を提供し、相談に乗ることができる等、所有者サポートの体制が構築されている ・所有者の意向があり、必要と判断される場所については、既存の制度等を活用し、町が管理に関与している ・病虫害や気象害に対して適切に対処し、その予防にも取り組んでいる ・一般町民が森に親しんだり、管理に参加したりできる仕組みや制度を整えている ・公共施設整備等に積極的に地域材を使用し、町民が日常的に森林の恵みに触れる機会を創出している 			

« ビジョン達成のためのアクションプラン（素案） »



ビジョン達成に向けて、いつ頃までに何をすべきか、町と森林所有者をまとめます。

着手時期		すぐにでも	5年以内	10年以内
主体	町 (行政)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森の基礎資料の作成と、森林所有者等への提供 ・ 災害リスクが高い箇所の抽出 ⇒ 行政が直接管理する必要がある場合、リスク除去のための整備 ・ 守るべきアカマツ林の設定（その要否も含めた判断） ・ 被害対策のタイムラインの策定 ・ 樹種転換、ライン沿いの先行伐採等必要な措置の継続、実行 ・ 松枯れ被害木の処理(継続) ・ 緩衝帯整備の検討（松枯れ対策と連動） ・ 所有境界の明確化支援 ・ 個人所有者と近隣団体所有者との連携支援 ・ 町の森の見どころや管理の先進事例等の見える化と共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 箕輪町森林整備計画等、他の行政計画とビジョンとの整合性をとる ・ 森の定期点検体制の構築（地区との協力を想定） ・ 野生動物との共生に向けた町民への普及啓発 ・ 町民の誰もが望めば森に関われる仕組みや体制づくり (自然公園の整備の検討、森林所有者と町民の関係づくりの支援、等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緩衝帯の整備、維持管理体制の構築 ・ 自然公園等の整備
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの森の状況把握（継続） ・ 定期的な見回り、危険箇所の点検（継続、追加） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管理の方向性や計画の検討、策定（町が提供する資料等を参考にする） ・ 若い世代を加えた管理体制の検討 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の森の状況把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管理の方向性や計画の検討、策定（町が提供する資料等を参考にする） ・ 近隣団体所有者との連携 ・ 後継者と自分の森の話をする、場所を伝える 	

≪ 森林ビジョン達成のためのアクションプラン ≫

分類	実施項目	着手時期と完了までの期間の目標					主に取組む人			
		すぐに	5年後	10年後	・・・	50年後	町	所有者	事業者	町民
森林ビジョンの 定着と 地域への展開	森林ビジョン推進体制構築	●→					●			
	既存計画等と森林ビジョンとの整合性確保	●→	→				●			
	地区単位の森林の基礎資料作成と公開	●→	→				●			
	地区ごとの管理方針の策定	●→	→	→			●	●	●	●
森林管理の 実行準備	森林の定期点検の体制構築	●→					●	●		●
	町内の災害リスク抽出と整備の優先順位付け	●→	定期的に繰り返す				●	●		
	松枯れ対策のゾーニングとタイムラインの作成	●→					●			
	野生動物対策としての緩衝帯整備等の検討	●→	→				●	●	●	●
	所有者・所有境界の把握	●→	→	→			●	●		
	所有森林の状況把握	●→	→	→				●		
	広義の森林管理の実行を担保するための検討	●→	→	→			●	●	●	
	広義の森林管理の担い手確保・育成	●→	→	→	→		●		●	
	団体有林と個人有林との連携構築		●→	→			●	●		
森林管理の 実行	野生動物対策としての藪の整備等の実施	●→	→	→	→	→	●	●		●
	優先順位に従った災害リスク軽減のための整備		●→	●→	●→		●			
	ゾーニングとタイムラインに沿った松枯れ対策		●→	→	→	→	●			
	森林の定期点検の実施		●→	→	→	→	●	●		
	森林の性質に合った管理の実施		●→	→	→	→	●	●	●	
町民の理解醸成	森林ビジョンの周知	●→					●			
	町の森林の魅力の見える化、観光資源化	●→	→				●	●	●	●
	町民の誰もが望めば森林に関われる仕組みや体制づくり	●→	→				●	●		●
	町民が親しめる森林の整備	●→	→	→			●			
	地域産木材の活用	●→	→	→	→	→	●	●	●	●

《 私たちの、森への関わりしろ》

旧

「森への関わりしろ」とは、森に関わりたいと思った人が自分から関われる余地、余白を意味する造語です。

- ・ながた自然公園で、毎朝のウォーキングを楽しむ。
- ・萱野高原で、家族や友だちとデイキャンプで盛り上がる。
- ・地区が主催するハイキングに親子で参加する。
- ・森林整備ボランティアで気持ちの良い汗を流す。
- ・薪づくりサークルを結成、森を手入れして薪もゲット。
- ・森の中でヨガイベントを開催する。
- ・森の中で句会を楽しむ。

・・・・・・・・・・・・・・・・などなどなどなど

(新しいアイデアや既に行われた事例、他地域の事例などを挙げる。
それらを絵で示しても良いかも。)

« 私たちの、森への関わりしろ »

「森への関わりしろ」とは、森に関わりたいと思った人が自分から関われる余地、余白を意味する造語です。

- ・ 地区の森林でハイキング、山菜やキノコの種類や採り方の講習会も
- ・ 森の素材でリース作りや木工体験
- ・ 森の中で音楽会、映画上映会
- ・ 星空観察やムササビ観察
- ・ 森の中でおやつとお茶を楽しむ会、テラスや展望台があったら素敵
- ・ 西山全体が、もみじで繋がる「もみじウォーク」をつくる
- ・ グランピングや女性のソロキャンプなど、様々なニーズに応えるキャンプサイトの整備
- ・ 萱野高原の再整備
- ・ 森林博物館（フィールドミュージアム）の整備
- ・ 町の森の見どころマップ、町の良いところマップの作成
- ・ 薪づくりサークルの立ち上げ

・・・etc

本編では絵で表現予定！収まりきらないものは解説編に列挙